



# 港工同窓会 ニュース

第11号

平成24年4月20日発行

発行責任者 前田武男

## 二十四年度定期総会開催を 迎えるにあたって

元港工業教師、港工同窓会理事  
港(全)3期電力科卒 加藤 琢二

母校が麻布工業、渋谷工業、高輪工業の三校統合によって、港区愛宕の地に、都立港工業高等学校として卒業生を輩出したとき、前身校の先輩方の伝統を引き継いで同窓会が発足し「港工同窓会」と呼称することも決まりました。

以来、会員相互の懇親を母校の教育活動に協力することを骨子に活動が続けておりました。母校の増改築で、総会の場所に困ったり、母校に奉職した同窓生が大量増設された他校に大量移動したため会務が滞ったりして総会が出来なくなる氷河期が続きました。

平成元年を期に、高輪工業卒業の高橋光春先生孤軍奮闘になっていた会務を、人員増他改善し、港工業卒業生が受け継ぎ、会務の活性化をめざしたく港工業卒、港工業奉職の加藤琢二、洞毛義弘、栗田吉夫の3期卒3名が発起人となり、高橋光春先生並びに幾本嘉夫先生を顧問格に協議会を進め、平成2年3月25日(平成元年度)に再建総会をサンケイ会館で開催しました。

以来干支のふたまわりの年数が経過しました。母校の廃校を始め、多くの波風がありました。挫けそうなことも多々ありました。しかし、多くの理事や会員の支えで耐えて参りました。前田会長と私は同級生であります。誕生月も同じで干支も同じ申です。あと4ヶ月ほどで満80歳です。私は最近驚くほどミスが多くなりました。ボケを感じます。

そろそろ心身に疲れを感じております。後継者の活性化エナジイを欲します。

平成13年度の定期総会参加者は121名、平成23年度は40名。淋しいデータです。

没同窓会の特効薬、同窓会を失わないために「絆」を大切にしましょう。

## ◇平成24年度定期総会

記

日時 平成24年6月16日(土)13時より

(受付12時30分より)

場所 総会 六郷工科高等学校 1階 食堂にて 13時より

(京浜急行「雑色」下車徒歩3分)

懇親会 芝パークホテルにて 16時より18時まで

(JR「浜松町」8分、都営地下鉄「御成門」5分)

会費 10,000円(総会のみの方は無料です)

内容 平成23年度事業・決算報告、新役員承認

平成24年度事業計画・予算案の承認その他

※懇親会参加の方は同封の郵便払込用紙の賛助金2,000円印字済金額を懇親会費共12,000円に訂正の上郵便局にて事前払込をお願いします

(ATM機に払込用紙を挿入すれば土日、夜間もok)

※準備の都合上、5月31日までに同封はがきで出欠の返信をお願いします

通信欄を若干上げました。住所変更、近況、想い出、提案、ご意見ほかお寄せ下さい、同窓生交流の場に出来れば幸いです。

## デュアルシステム科紹介

東京都立六郷工科高等学校 デュアルシステム科教諭 千葉 政英

デュアルシステム科は、大田区近隣の地域企業に貢献できるものづくり人材育成を目的として設置された学科です。生徒を企業へ派遣し企業実習を行い、働くことが学びとなり、卒業を目指すことが特色です。

## 1年生は「出会い」

1年生は様々な出会いがあります。先生、友達、授業：その他にものびく入り混じり、緊張感の中にも企業との出会いやインターンシップに対する期待感が感じられます。4月からインターンシップの事前指導が始まります。「学ぶこと働くこと」(学校設定科目)の授業時間内でマナー講習会、企業見学などを行い、挨拶や社会ルールなどを学習します。6社程度の企業見学を行い、働くことを肌で感じ取ることや企業理解を深めます。生徒がこの授業を通してインターンシップへの期待が高まる様子が見受けられます。

インターンシップは、1社当たり1週間の体験で2社実施します。実習する企業選択については、企業見学で見学した企業やデュアルシステム提携企業ファイルから自分で探します。このインターンシップでは技

術・技能の習得よりも「8時間働く」ことを目標としています。生徒の感想では、働くことは大変疲れるといった感想が多くみられる反面、自分も技術者になりたいといった目標を持ち帰ってきます。

## 2年生は「切磋琢磨」

2年生では「長期就業訓練」として1ヶ月間の就業訓練があります。年間2回、合計2ヶ月間行われます。就業訓練では、自分を試すことやもしくは異なる企業で自分と向き合い進路目標を立てる事を目標としています。2回の就業訓練では同じ企業もしくは異なる企業で就業訓練に取り組み、自分の適性を判断します。学年末までに進路目標を立てます。

1年生の企業を継続して就業訓練を行う生徒は、社員とのコミュニケーションが取れ、技術や技能習得が計れます。2社異なる企業を選択した生徒は、それぞれの企業を体験し企業理解と自分の適性を判断することができま。就業訓練を通して技術、技能習得と企業体験から勉強の大切さや挨拶などのコミュニケーション、社会ルールの大切さがわかり、

## 3年生は「極める」そして「いきる」

3年生は進路目標を達成させ、社

会人となるための準備期間として取り組むことを目標としています。2年生と同様、「長期就業訓練」が2回、年間合計2ヶ月間行われます。3年生は進路を決めることやまとめの学年です。これまでお世話になった企業への就職を希望する生徒やさらに勉強の必要性を感じて上級学校へ進学を希望する生徒など進路目標も生徒によって異なります。

今年度の進路状況は就職率80%で、すべてお世話になった企業(デュアル提携企業)への就職となりました。進学率は10%で大学や専門学校への進学です。企業の都合により就職できなかった生徒(10%)もこれまでの就業訓練の体験から学校幹旋(求人票)からの就職を目指しています。

生徒は就業訓練で企業や仕事と出会い自分の適性を判断して進路決定をしました。4月からはそれぞれのスタートラインに立ち、六郷工科高校を巣立っていきます。

## デュアルシステム科の今後の展望

デュアルシステム科は平成24年度から全日制課程の学科となります。システムそのものは変わりませんが、生徒募集定員が30名から35名になりました。基礎学力の向上とインターンシップや長期就業訓練の充実を計り、生徒の目線に合わせた指導を実施して参ります。



第8回六郷祭見学記

港全 12期E2 中西 悦夫

平成23年11月12日(土)10時「開店準備中」の生徒の間をぬって校舎内へ。1F正面入り口に常時展示されていたA型フードは自動車工場へ移設され、ねぶたの大きな展示物になっていた。例年通り、1Fの小会議室に入り、数人の理事で機の配置を考え会場作り。従来の卒業名簿、アルバム、同窓会経過のパネル展示に加え、今年は何か違ったものと思ひ、私が50年前に作った真空管ラジオと、港(定)9期・山元理事の真空管ほか貴重なコレクション部品などを展示してみた。これならば六郷高生徒にも少しは興味をもってもらえるかと思つたからだ。なにしろ、今の電子技術はすべてIC化されてしまつて個々の部品がどうなつていくか知る由も無いからだ。



在校生は少なかったが中学生、OB、職員ほか多数の方が興味深そうに見ており、展示して良かったと思う。今年の来訪記帳者は17名、内6名は30期以後であり、若返りを感じた。23Eの方が昨年急逝され、奥様が六郷在校生のお嬢さんと来訪、懇談し次女も入るかも明るく話された。



展示会場を歩いてみよう。

1Fは当同窓会のほか、茶道部、オートモビル工学科の工場・展示室。2F、デュアルシステム科展。ここは当同窓会杉野理事(六郷工科高教諭・28期A)が今年度から担当しているコースだ。企業で働く実習しながら単位がとれるシステムだ。読者の皆さん、ここで質問。複写機でコピーした文字をさわつて

「字」の部分がわずかに盛り上がっているのを感じますか?ペタランの大工さんは指先でマイクロン単位の凹凸を感じ、木板をカンナで削ることが出来る多云う。そういえば、天文台の望遠鏡のレンズ磨きの最終チェックは専門のレンズ職人の指だ。デュアルシステム科展では学生諸君が丸棒を削る実習をしていた。説明係りの学生君にいじわるな質問。「みなさん、何ミクロンまで凹凸を感じるの?」説明係り君、「???」当たり前だよネ。きのう今日実習始めたばかりの学生さんだ。数ミクロンを見分けられるまでこの先何十年かかるか。ガンバリたまえ!



3F、ドミノ倒しの会場。六郷祭2日目(13日)PM2時過ぎより、

スタート。一万個のドミノをクラスメートが8時間かけて組み立てたそう。スタートは、事前に選ばれた小学低学年の男の子。会場になった教室は窓まで鈴なり。ヨイドンで多数の観客に見守られて次々倒れていく、...が、残念ながら途中で半数止まって再スタート。結局、40秒ぐらいで何とか全部倒れた。そう、約30000秒くらいかけて作ったドミノを僅か40秒位で破壊。2Aクラスの諸君、ごころうさん!



A型フードが自動車工場(オートモビル工学科)の隅に引退してしまつたようだ。いまのところ再展示の予定はない、とのこと。港工の歴史がまた一つ無くなつてしまつたように感じ、複雑な思ひでいっぱいだ。

## 返信はがきからの近況・想い出（特別会員・24年度）

旧（第10代校長） 村上 五雄

港工同窓会の開催にあたり、前田会長はじめ役員の方々のご努力に感謝申し上げます。小生こと、おかげさまで毎日無事に過ごしておりますが、高齢者として心身の劣えが目立つようになり薬の種類も多くなりました。世の中の進歩におくれないように新聞を欠かさずに読んでおりますが、政治、経済ともに難しい問題が山積している様子で、ひたすら家に閉じこもって息をのむ毎日です。

旧（第12代校長） 関 透

例年のことですが、私自身の出身高の同窓会関東支部の総会と日時が重なっており、本年はそちらの会に出席したいと思っておりますので、貴会の方は欠席とさせていただきます。  
ご盛会を心より祈念いたします。

旧（第14代校長） 和泉 勲

港工で仕事をさせて頂いたことに感謝しています。特に同窓会には色々な思い出を作らせて頂きました。  
平16年に退職し、現在は、日本無線協会で無線従事者の育成の仕事を続けています。今後共よろしくお願います。

旧（第15代校長） 小山 実

情報提供ですが、3月知り合いの先生からすめられて、「育成塾」へ参加することになりました。この会を主催している森和夫教授（現農工大教授）が港工業高校の卒業生とわかりました。4月7日初めてお会いする予定になっています。

旧（教頭）定 三谷 和夫

地方史の会、我孫子の文化を守る会、短歌会（新アララギ）で、土、日曜はほぼ一ぱいですが、相馬八十八ヶ所一首、三年がかりでまもなく「大師道」の本のりです。地方史、地名などの語り部をしています。

旧（教頭）全 野上 明夫

定年退職して4年目をむかえます。都立橋高校において進路指導、特に全校インターンシップを担当し、受入れ企業の開拓に精を出しております。お陰様で充実した生活をさせて頂いております。

旧（教頭）全 相川 英昭

幹事さんお世話さまです。スカイツリーのことが報じられるたびに東京タワーのそばにあった港工のことを

思い出します。今は障害児の相手をして過ごしています。

旧（自動車）全 明石 朗

会長さんを初め係諸皆様方のご苦勞に感謝いたします。小生も微力ながら参加いたします。皆様方のご指導よろしくお願い申し上げます。

旧（電気）全 山田 信幸

前田会長、幹事の皆様のご努力で同窓会を続けられ感謝いたします。  
S 25港工高の電気科に奉職してから60有余年になります。当時の明石先生、渡辺（國）先生がお元気の事、是非、懇談会でお会いしたいと思います。私も、マスコミの仕事を退きました。現在、放送製作の若い方々の相談にのっています。先生のくせは、なかなか抜けないものです。

旧（電気）全 高橋 光春

足腰が弱り、遠出が出来ません。

旧（電気）全 豊島 壮治

体が不自由なため欠席します。

旧（電気）全 小又 良一

港工の思い出は懐かしいことばかりで校歌も大好きです。  
先年、交通事故で雨の中で路上に横たわった時はもうこれで終わりかと

思いましたが、幸いにも病院にも行かずに済み、何とか立ち直りましたが、腎機能の低下はその時の影響かもしれません。でもこれも宿命であり、歩行もでき食欲もまだ残っております。ありがたき思っております。

日本の笛作りは続けておりますが能管など六ヶ月もかかる程面倒な仕事です。ところが急に売れなくなり、販売店の話では、悪口を並べて妨害する人物（昔の弟子らしい）があったようで、こんな世界でも美しいものではないことを知りました。

でも港工でフルートを吹かしていただいた（妨害もされず優しい職員、生徒たちが守ってくれた）お陰であり、この2年間売れないものの、異（たつみ）印の能管としてインターネットに載るだけで満足しております。

旧（電子）全定 大谷 忠雄

役員の皆様お世話さまです。喜寿を越し、一人で気ままに暮らしています。

旧（電子）定 伊藤 雅章

東京在留中の書籍などは、廃品回収業者にほとんど渡し処分しましたが、港工時代の「教務手帳」は残してあります。教えた子供達も還暦を過ぎたはずですが、今頃どうしているか、元氣だろうか。

**旧(数学)全 両角 亮一**  
震災で大きな被害を受け、安全、安心、信頼性について考えさせられました。工業教育はそう言う面の一翼を担っていることを感じました。

**旧(社会)定 藤崎 ミヤ子**  
土曜日午後は健康維持のため「太極拳」の教室に通っておりますので、欠席します。何といっても健康第一ですので(笑)、参会の皆様によりしくお伝えください。

**旧(機械)定 福富 千明**  
毎年2月第1土曜の上野は、昭和48年度定時制電気科卒業生クラス会。今年で点灯20数年、もう幾本先生との同座は叶いません。どうか還暦まじかの教え子たちをいつまでも見守っててください。

**旧(理機助)全 伊藤 孝夫**  
現在、世田谷区立富士中学校に再任用で勤務しています。

**旧(英語)全 甲斐 徳隆**  
第二の人生は、地元の人たちと親しくしています。マラソン、水泳そしてオカリナetcを楽しくやっています。仲間が増えてきてとてもうれしく思っています。100歳でホノルルマラソン！これが私の夢です。

**旧(自動車)全 猪口 明**  
ついに後期高齢者となり、市役所より会合に呼ばれ参加が決まって居りますので欠席させて下さい。

**旧(電子)全 長岡 美穂**  
70才になりました。スポーツ少年団で小学生にソフトテニスコーチしています。団員の進歩が楽しみです。

**旧(体育)全 小川 幸吉**  
いまだ、高野連に関係しておりまして出席することが不可です。

**旧(国語)全 花田 恵子**  
いつもご連絡ありがとうございます。昨年4月の異動で目黒高校に移り、小向(内田)百合子先生と再び一緒にになりました。

**旧(国語)全 亀谷 幸美**  
先日、子供の大学入試の際、上京し、芝公園から港工業高校跡、愛宕山、新橋と懐かしいエリアを歩きました。港工業の建物はほとんど昔のまま残っているものの、人の気配もなく閉鎖された校内は廃墟そのもの。何百人もの高校生や教職員が賑やかな毎日を送っていたことがまるで夢のように思い出されました。以前と変わらない愛宕山の姿に何だかほっといたしました。

**旧(電気)全 山川 正**  
私、港工で定年退職あれから18年が経ちました。港工で最後にだした卒業生、それが私にとっても教師最後の卒業生でした。今でも皆と逢って楽しんでいきます。

**旧(国語)定 持田 ひろ子**  
先日、六郷工科より講師の依頼がありました。すでもう18時間受け持つていますので残念ながらおことわりしましたが、いまだにご縁がつかうがっている気がして嬉しく思いました。前身の港工業のあたりも、高層ビルが建ったりしてずいぶんかわりましたけれど、愛宕山のあたりは以前の雰囲気が残っていてなつかしく感じました。

**旧(事務) 国分 賢司**  
一昨日、17年前の地下鉄サリン事件にかかわる映像がテレビに映され、また慰霊の催しも紹介されてました。私は港工業高に転勤して1年目、隣の慈恵医大病院に次々と救急車が入っていくサイレンと、あわたたしさを目にしました。サリン事件とはしらず、テレビで神谷町駅の映像ライブを見ていたものです。赴任1年目にしての重大事件でした。忘れられません。

**旧(家庭)全 檜垣 栄恵**  
今年も前田様のお名前を拜見でき、とても嬉しく、教員としてお話をうかがっていた頃を懐かしく思い出しております。昨年、港工の旧校舎の周辺を通りました。(周辺の桜がきれいな頃でした)

**旧(事務) 森谷 顕**  
閉校後、校舎は警察が使用しているというお話を聞きましたが、今も使われているのでしょうか。とりかわされるよりも、残っていることの方がうれしいのは確かです。今もときどき思い出します。

**旧(電子)全 武藤 隆**  
港工から、昨年度まで蔵前工に勤務してました。今年度(H23年度)から墨田工へ異動しました。

**旧(自動車)全 大塚 健一**  
私はさる4月1日、都立大島海洋国際高校に転任を命ぜられ、海を通したの教育業務にたずさわっております。工業教育も含め様々な分野の知識と技が求められると興味に引き込まれているところです。そして日本の未来は身近な海にこそあるなど気づかされながら生活しております。  
(敬称略)



**在職時の想い出**  
 旧(事務長)全 石田 昭宣

1. 旧小学校転用校舎が東京都に10校あり、その中の1校が港工であった。校地が狭いため教育活動に支障があるので隣地の買収に入った。プールの東側に、青山印刷(株)、写植(株)、河野氏。学校としてはどうしても買収したいところであった。毎晩のように、午後8時過ぎまで各社に回り、交渉に伺った、当時の伴校長先生もたびたび同行された。学校側の熱意を汲んで頂き契約することが出来ました。

契約に当たっては、物件が銀行の抵当に入っているため、これを外さないと契約は出来ない、はずすに苦労した事等が思い出されます。建築に当たっては、校舎の取り壊しには、関東大震災後に建てられた校舎のため土台、壁面の強固なことに撤去作業工事に苦労をしたと伺いました。

2. 東京都担当者の積極的な協力、学校、同窓会、PTA等の一糸乱れぬ協力があってこそ校地の隣地買収が出来、新校舎が建てられたものです。今、時の流れとは言え、多くの思いのこの港工の名が見られないのは卒業された方々と同じように寂しいことです。

富津寮のこと、生徒の合宿行事をする前に、寮の保全受け入れ準備のため、体育の当時担当の藤田先生と現地に行きました。

**恩 師 訃 報**

中村 圓平 (電気) 定  
 相田 正三 (機械) 定  
 (敬称略)

ご冥福をお祈り申し上げます。

**平成24年度定期総会**

**恩師出席予定**

- 和泉 勲 (第14代校長)
- 明石 朗 (自動車) 全
- 山田 信幸 (電気) 全
- 加藤 琢二 (電気) 全
- 広橋 恭二郎 (電気) 定
- 西原 要四郎 (教務) 定
- 両角 亮一 (数学) 全
- 杉野 栄一 (自動車) 全

平成24年4月15日現在  
 (敬称略)

**☆紙芝居「港工の歴史」**

**続編上演について**

昨年の総会で前田武弘理事(港8期M)が紙芝居「港工の歴史」を上演されました。その後、前田氏は資料調査のうえ内容を更に充実させた「修正版」の製作に取り組みました。そして昨秋、完成させた後にかねてより療養中の病气悪化のため逝去されました。

ご遺族様から紙芝居をお預かりし、同窓会役員内にてなんとか上演の準備を進めており、「修正版」の上演をご希望された前田氏のご遺志に報いる所です。

ご冥福をお祈り申し上げます。



◇ ◇ ◇ ◇ ◇

◎ **来年は港工同窓会**

**再建25周年記念です** ◎

世界的マジシャン

前田知洋氏(港36C卒)の  
 懇親会出演を計画します。

## 先生方に感謝

港(定)9期C 山元 稔

将来の目標はテレビ、ラジオの技術者を目標にしていました。入学して間もなく、田島先生の電話交換機の授業でした。実習室で生まれて始めてのA型交換機を目の前に、電話局にはこれと同じ交換機が何十台も並んでいるだろうなと、こんな交換機を発明した人って、素晴らしい人なんだなと思う反面、こんな複雑な授業に自分はいけるかな、教科書を開けば複雑なリレー回路のケールトレスによる、動作の理解? ああ分らない!!! 期末試験はたぶん落第点でした。片山先生の伝送路理論、L、T、II、型平行型4端子回路網(R、C、L)の難しい無限長線路の計算式でした。

片山先生は授業を進める中で、「今の授業で理解できなくてもかまいません。数学の授業より先のことをやっているのだから、後々きつと役に立つこともあります。」と慰めの言葉だったのでしょうか、ああ俺はどうして、こんな難しい電気通信科なんかに入ったんだ?

中学在学中、職業科の先生から「鶏頭と成るも、牛尾となるなかれ」の教えもあり、小さな会社に入りました。勤め先は、入社当時、配電盤用等の

計測器製造販売の神田の小さな商店でした。こちらも目標とは畑違いの職場、先輩方は、私は高校卒業するまで「ザーツ」と丁稚小僧扱いでした。

在学中職場の営業方針が広がり、卒業当時には、電電公社関係認定工事会社の計測機器等の修理を始めました。在学中に受けた授業が、少しずつ理解できるようになりました。政府電電公社主導の全国自動化第1次〜何次5年計画の波に乗って、機械関係では、A型簡易試験器等、線路関係では、伝送路用試験機器全般です。当社は自社に持ち帰って、修理をしていましたが、卒業後5、6年になる頃には工事現場に出張修理を依頼されるようになりました。修理完了後、工事会社の技術者の線路試験を見学しながら、自分も試験をさせてもらっていました。

現場で感じた事は、現場で作業する人たちは、測定機器の扱い方の荒っぽいこと、製造メーカーの機器の堅牢さに欠けることです。(実験室用?) 使いかたも悪い、これらを改善して、もっと扱い易い物を、現場の人たちにとの思いで、工場で行錯誤しながら、頑丈で扱い易い機器を開発していました。

線路試験の目的は不良線路を探索し、線路規格性能以上の製品にして、電電公社に納入の義務があります。都市地域では、各電話局間中継線路

方式工事が主体、地方市町村域間では、多重通信(重信回線)、搬送周波中間中継方式、大都市間は同軸ケーブル中間中継方式です。いずれも測定の正確さとスピードが要求される作業です。常に描く事は、機器の回路、原理、伝送路理論、正確度、スピード創意工夫です。社長、工場長の信頼を得られるようになると共に、工事会社の上司、技術者等からも信頼されるようになり、鉄道関係の工事会社からも発注があるようになりました。

印象に残る二つの事件、一つは装荷線路方式で、特性インピーダンス値が規格どおりに入らないことがありました。設計図を見ても明らかに、装荷線輪設置位置が均等でないことを、公社監督に具申しました。「設計者にけちをつけたのは、お前が初めてだ、少しばかりできると思ってた。に乗るな」と怒鳴りつけられました。まもなく設計担当者と検査課、工法課の課長が来られ、理論説明しました。勿論納得していただけました。

二つ目は、茨城の電電公社東海通信研究所からデジタル伝送方式の研究者の方々が、私の線路試験を見学に見えました。場所は丸の内電話局です。研究所の方からの質問で、「実は現在運用されている線路に、デジタル信号を載せたいのですが、送受信ミスが多くて困っているのです。

良い方法があれば教えてくれませんか」とのことでした。「このケーブルは、直流48ボルトで運用しています。通常の電話伝送には、支障がありません。実はこのケーブルには欠陥があります。芯線表面に酸化被膜のようなものができています。この被膜が高抵抗を示します。各メーカー共に、同じ現象なのです。この芯線を手で捻って接続しています。高抵抗の被膜同士を数十カ所も接続します。デジタル信号を送送できない原因は、このことです。

解決方法は、各接続点を開いて指定回線を局内から追い出して、半田上げをすれば、必ず解決できます。」この時も以前と同じ公社の監督でした、またも叱り飛ばされました。このとき研究所の方がとりなしてくれました。即日検査課、工法課の方々の立会いのもと承認されました。

今、思い返せば、この件で電電公社のデジタル化は、数年は早まったのではと???

私は後期高齢者になって振り返ってみて、学業成績は下の下でしたが高校時代諸先生から教わった事柄、技術、理論、精神訓話(責任感、勇気、行動力)卒業後完璧に近い程、社会貢献ができたと思っています。

田島先生、片山先生、鍛守先生、担任の八巻先生、その他諸先生方に深く深く感謝いたしています。

「20周年記念誌より」

## 分校の思い出

港(全)4期C 水谷 兵吾

あれから二十年、すべてが大きく転回して時代は変わり、私自身も青年期を過ぎてしまった。二十年前の学生生活、今は懐かしく思い出すまま、ペンをとってみた。終戦後第一回目の中学生となった昭和二十一年、この時代は世の中すべてが混沌としていた。当時は旧制であったため、小学校をですとすぐ入学したわけであるが、その時は都立高輪工業といつて高輪泉岳寺の近くに学校があったときである。

校舎は老朽化し、教室の数も不足し、二部制の時もあったように記憶している。しばらくして学校が港区の現在地にうつり、六三三制の学校新制度が取り入れられた。これが現在の港工高になったのであるが、われわれはこの当時旧制中学最後の入学生となり、三年間高輪工業併設中学校という名で下級生のいない学校生活を送ったのである。

この間の学校生活は学校が引越したときに現在の教室が不足していたためもあり、本校と別れて日赤本社近くの桜川小学校の一部を間借りして分校生活を送ったのである。

学校引越しの日、われわれは一人で一個ずつの椅子を持ち、田町を通過して御成門まで歩いていったことを記憶している。小学校について屋上で一休みしながら、これからここで勉強していくのかと感無量であった。屋上からの見はらしはよかった。しかし東京の街は一面の焼け野原であり、新橋付近はヤミ市のバラック建てがたくさん並んでいたし、学校のまわりの家並もやけどタンのバラックが多かった。

通学の電車も大変だった。こしかけの上に乗客が立ち上がってしまうのだから、連結器の上や空いている運転室までぎっしりであった。当時の電車は現在のように車両がつながっていないから、よく連結器の上などに乗れたものだと今から思うとぞっとする。洋服やくつも不足していた。それらはすべて配給であり、学校でークラス五人ぐらいまでしかあたらなかったが、その学生服たるやカーキ色の国民服でブカブカだった。

教科書さえ十分でなかった当時は、すべて学校でくばられた。部数が足りないときもあり、クジ引きでわけるときもあった。紙の質は悪く、新聞紙のような大きいのを自分で切つて製本したものだった。今考えてみると信じられないような時代だった

が、それでもみんなの希望は明るかった。教科書の足りないところや参考書はよく図書館へ行った。お茶の水、京橋、日石、品川、当時はこのくらいしかなかった。よく仲間と行ったものだった。食料事情も悪く、ほとんどのものは弁当を持って来たが、米のめしはもとより、むぎめしはよい方であった。一日一食は何とか米のめしがたべられたが、あとは代用食で昼をまたずに十時ごろから先生の目をぬすんでパクつく者もあった。昼にはなくなつて絶食である。

今のように金があつたつて売つてはくれなかつた時代だった。これも二、三年頃までには大分よくなつてきたが、今とは比較にならない。分校の生活についてはこのような環境の中で過ごしてきたのである。小学校の教室四つぐらいが私たちの生活の場であり遊び場は屋上だけで体操も屋上を使ってやったものだ。若さにあふれる私たちにせますぎた。早く本校へ移りたいと思つたが本校も窓ガラスは割れ爆撃を受けたあとがはつきりと校舎にあつた。ようやく二十三年ごろプロ野球もさかんになり出し、学校でも軟式の野球をやるようになったが、学校ではできず芝公園の空地を見つけてはあちこちと暗くなるまでやったのを思い出す。分校生活はとても楽しかった。よくまと

まり先生と生徒の気持ちがあつたに思つてた。先生にそれぞれアダムをつけて喜んだりしたが、今思えばひや汗ものである。勉強の方もみんな熱心であつたが教科書もろくになく、まして教材などまるでなく先生もずい分苦労されたことと思う。学校が終つたあとよく銀座をぶらついたことを思い出す。その当時は銀座の歩道にズラリと露店の店が開かれていろいろなものを売つていて一軒一軒のぞいてまわるのはなかなか楽しいものだった。今の銀座に当時の面影はまるでない。たのしい思い出の一つに遠足がある。三度ほど記憶がある。初めてのときはたしか向ヶ丘の遊園地だった。二度目は御岳だったと思う。三度目は三年のとき併設中学の修学旅行であり、中央線の猿橋という所にある扇山への遠足だった。当時としては遠くへ行つた方である。とても楽しかった。今でもはつきりと思ひ出す。二、三年前思い出の扇山へ会社の仲間と登つてきたがすべてが昔のままであり、なつかしさでいっぱいになった。

学校ではクラブ活動らしいものもなく、現在と比較すればなにもかも不足の時代であつたが、学校で学んだ先生の教えの一つ一つが強く心に刻まれ、社会生活に大きくプラスしていると思う。 《次頁下段▼へ》



「50周年記念誌より」

思い出すままに

旧（数学）全 両角 亮一

私が港工業に赴任したのは昭和41年4月でした。はじめて見た時敷地が狭く高校としてのイメージから程遠いものでしたが、後に小学校の校舎のここに移転しなければならなかった事情を知って当時の苦勞を思いました。

赴任した時の校舎の様子は今の事務室、保健室、食堂あたりが講堂で、事務室の倉庫が用務員室で進路部から生徒部にかけてが事務室、応接室、職員室で柔道部が視聴覚室で職員会議はそこで開かれそこから東京タワーが見えエレベーターの上り下りが眺められました。北側一階の体育の倉庫あたりに給食の売店があり朝登板の生徒がパンの注文をし昼休みに売店から持って来て配っていました。その体育の倉庫から便所にかけてが電気科の倉庫であったようでした。

次に教育活動ですが科によって異なっていました。7時限目までの授業のある日があったこと、朝のHRで計算尺の練習をしているなど工業高校はすごい所だと感心したものでした。体育館は無く球技などは校庭で行っていました。施設の不十分の

中、部活動は今もそうですが少ない施設を譲り合い工夫し合って行っていました。こうした様子に接しているうちに校舎の狭さをそれ程に感じなくなっていました。

生徒会主催の行事は新入生歓迎会、野球大会、球技大会（放課後実施だったと思います）。水泳大会、学校際、送別会などがあり熱心に活動していたように思われました。

次に心に残ったこととして高校の紛争がありました。大学紛争が高校まで広がり港工業にもその影響が及び連日のように職員会議を開き対応を討議し生徒の代表との対話を進める中で集会、分科会を持ち大きな混乱にまではいりませんでした。

その後修学旅行の実施に際し外出時の帽子の撤廃、靴の色の自由化の要求にはじまり、服装の自由化の要望が生徒会から提起されました。

度重なる職員会議、クラスでの討議、保護者会で意向を聞きながら生徒会との話し合いをした結果、特別行事で団体行動をとる時は例外として別に決める。バッジはつける、身分証明書は携帯するなどの条件のもとで服装の自由化（学習にふさわしい服装）が生徒会で可決されました。これを受けて職員会議で認めることになりました。これが現在まで続いている訳です。

このような時代にカー、クーラー、カラーテレビの「3C時代」がはじまり、ミニスカートの大流行、霞が関ビル完成、東名高速道路の開通、アポロ11号が月面着陸に成功し、大阪で万国博覧会開催などがありました。

次に顧問としての思い出です。最初は陸上競技部でした。芝公園や皇居前あたりを走って練習していました。1学区内の6校の高校が集まったの6校大会が大森高校で行われ港工業は短距離が比較的強く活躍していた記憶があります。聞くところによりますと水泳部にも3校大会があり活躍していたことでした。

夏の合宿はバレー部、柔道部との合同で千葉県保田で実施していました。練習のあい間にレクリエーションとして近くの鋸山に登ったり、保田海岸での海水浴などは生徒にとっては楽しい思い出のようでした。宿のすぐ前が内房線はまだ一日に何回かSLが地響きをたてて通っていました。

今は野球部の顧問をしています。練習は屋上のネットの中と校庭が主です。その時々監督の先生方は限られた空間の中での練習方法に苦心し工夫をこらしていました。またグラウンドの確保には大変苦勞をしています。保護者から【下段※へ】

《前頁より》当時の苦しい時代に常に生徒を明るくたくましく育てて下さった先生方に深く感謝している次第である。分校の三年間を終了し本校へ入ると同時に、旧から新への教育体制がはっきりと区切りをつけ、高校生としての学生生活が新しく始まったのである。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

【上段より※】バッティングマシンの寄贈をいただき大変役立っています。普段の練習に加え合宿での基礎的、系統的な練習をもとに練習試合を通して実践的な感覚を養うほかはありませんでした。こうした中でも部員たちは一生懸命に練習し夏の大会で4回戦まで駒を進めた事もあり、秋の大会ではブロックで好成績をあげ春の大会に出場したり、記録に残る勝利をおさめる事もありました。

負けた時ダグアウトで涙を流し、監督に促されて球場の外に出ると友達、保護者、OB、先生方がいつも温かく迎えてくれ励ましの言葉をかけてもらい、こうした胸の熱くなる場面は次は頑張るぞという気持ちになるようでした。他の部もそれぞれの工夫で活動し諸大会に参加していました。50周年を機に更なる発展を祈ります。

## 港工 校舎について

港工校舎は、「復興小学校」といって大正12年(1923年)に発生した関東大震災の後作られた。大震災により東京市立小学校195校のうち、無傷で残ったのは2校のみで2/3が倒壊、焼失した。復興事業にあたり東京市は不燃化構造にするため鉄筋コンクリートの建築を採用した。設計規格は東京市臨時建設局が作成した統一規格によるが、外観デザインはそれぞれ独自のものとされている。これを「復興小学校」と言う。港工校舎はこの復興小学校を利用したものだ。

復興小学校として建築された小学校は全部で117校。建設時期は1924年(大正13年)から1935年(昭和10年)にかけて作られている。

港工校舎の前身は「東京市立愛宕高等小学校」と言う。

創立 1908年(明治41年)  
1923年(大正12年) 関東大震災

復興小学校として 1927年09月(昭和2年)起工

1928年12月(昭和3年)竣工

戦後、東京市立小学校は無くなり、区立となる。愛宕高等小学校は区立ともならず、廃校。土地、建物は東京都の所有となる。

### 港工・創立概略

昭和21年4月1日	都立高輪工業学校、都立麻布工業学校、都立渋谷工業学校、の3校統合し都立高輪工業学校となる
昭和22年5月1日	現在地に移転開校。(都立高輪工業学校) (本校・芝高輪北町、分校・港区立桜川小学校内)
昭和23年4月1日	都立港工業新制高等学校 発足
昭和25年1月26日	都立港工業高等学校となる。
平成16年3月31日	閉校

※昭和18年7月1日より東京都制施行

復興小学校で有名なのは中央区。明石、秦明、常盤小学校などがあったが、復興小学校の原型といわれた明石小学校は、建築学会の反対にもかかわらず残念ながら解体された。秦明小、常盤小は都の歴史的建造物として保存されている。港区には九つの復興小学校があったが、(ほぼ、建築時の状態で)現存する建物は「港工高」であった旧愛宕小のみだ。丸みをおびた“角”など、復興小学校の原型に近いと云う。(同じ区内の復興小学校である高輪台小は改築され現存＝港区立)。この校舎にどのくらいの歴史的価値があるかよく分からないが、建築の歴史を残す為にもこのまま取り壊してしまうのは、とても残念に思う。(港区はこの港工校舎には関心なし)

都の財務局に問い合わせたところ、すぐに解体する予定は無く今後どうなるかは全く不明だそう。都心部に残っている数少ない都有地の一つなので有効利用を考えている、との事。今も倉庫代わりに使用しているそう。今後どうなるか情報があれば連絡して頂けるようお願いしておいた。

2011/09/10

港工同窓会理事 12E2

中西 悦夫

参考：ウイキペディア、朝日新聞、都・教育庁、都・財務局、港区、閉校記念誌

理事会のページ

第2回港工同窓会旅行記

午後1時半。そろそろ11月というのに少々暑いくらいだ。「秋の日はつるべ落とし」というが、まだ陽は充分高い。ホテル集合5時までには時間たっぷり。プラプラ行か！  
平成23年10月23日(日)  
JR湯河原駅。

街の風景を見ながら歩き始める。途中、「五所神社」で参拝。高40米樹齢六百年の大楠木。大人二抱えもあろうか。小さな人間一人の営みをはるかに越えた自然の生命力だ。  
川沿いに沿ってゆるやかな坂を上って行く。やがてホテル前へ。3時のチェックインを済まして部屋に。集合まであと2時間。早速、大浴場へ。大きな湯船にたった一人身を沈め旅の喜びを感じる



5時になり全員集合。食事開始時間に関係ない宴会コースを希望していたのだが、人数10名以下のため断られてしまった。仕方が無い。7時過ぎのバイキングコースで宴会。

昨年の第1回理事旅行から「理事」をはずし同窓会旅行とし、港工ニュースにも案内を載せて一般会員からの参加を希望していたが、残念ながら会長を含めて6名、15名位をめざしていたのだが・・・  
宴会後はみんなでカラオケを楽しみ少数人数で歌いまくった。



翌日は、バスで登って湯河原の奥にある「不動の滝」まで。ここで記念撮影などして、再びバスで戻り湯河原駅へ。駅前で軽食をとり、現地解散となった。

この旅行で収穫もあった。新しい理事に、18期Aコース相川浩氏をゲストしたことだ。この2年で理事さん2名があいついで鬼籍に入り、寂しい思いをしていたが(我々より)若い人に入ってもらったので、大いに期待したい。(理事 E・N)

第3回・同窓会旅行

今秋も同窓旅行を計画します。  
・日程、10月21日(日曜の夜泊)  
・行先 中央線沿線「石和温泉」  
・現地集合・解散で費用1万2千円ぐらい。理事だけでなく、一般の会員の方も多数参加を歓迎します。  
港工の思い出を話しませんか!  
参加の有無に関係無く興味がある方は事務局までご連絡下さい。資料をお送りします。

港工同窓会余語

当同窓会は途中、中断を含め50年以上続いております。他校をみてもこれほど長く活動しているのは珍しいのではないのでしょうか。これには勿論、加藤先生(会計理事)、前田会長が中心になって盛り上げて下さった功績が一番ですが、同時に同窓会員のご協力がなければここまでいかなかったでしょう。旅行記にも書きましたが新しい理事さんが加わり大変こころ強く感じております。クラス会に比べ同窓会はとつきにくいと思わず同窓会にも是非ご参加を。  
港工の最後の同窓生が、我々の年(70才以上)になるまであと50年。後に続く同窓生の皆様、港工同窓会百周年を祝ってみませんか? 我々理事もその姿を見たいのです

が・・・

編集後記

同窓会の「課外活動」は今のところ「旅行」だけですが、他に「ハイキング」とか「写真クラブ」なども考えられます。こんなクラブはどうか、などご提案下さい。企業戦士として戦って第一線を退いた方、同窓会で活躍してみませんか?

この同窓会ニュースでは皆様からの投稿をお待ちしております。学校時代の裏話、卒業後の人生、創作、など何でもかまいません。但し、限られた紙面なので八百字以内ぐらいに収めて下さい。(長文の場合は編集させて頂いていただくこともあります。)写真でもかまいません。この「港工ニュース」作りに関してのご意見もお寄せ下さい。こんな情報がほしい、とか、「こんなことやってみたら・・・」とか、紙面発展のためどうぞ。

この同窓会ニュースの到着を待ち望んでいられるかたが、大勢いらつしやるのが「返信ハガキ」からも読み取れます。毎回お願いで恐縮ですが、このニュースを末永く続けるためにも会費の納入に是非ご協力下さい。

同窓会ニュース1号〜10号までのCD版を作りました。ご希望の方は事務局まで。(ウインドウズXP対応・PDFファイル必要)

事務局からお知らせ

◎会則改定による賛助金のお願

平成23年度の総会案内及び会報は、全員（住所判明者約4,800部）秋の臨時号は恩師及び賛助金納入者（1,600部）に送付しました。賛助金は551名の方に送金戴き、前年比約10%増で平成21年度と同程度に戻りましたので、本年も会報を全員に発送することにしました。

同窓会の収入は会員の賛助金・寄付金のみです。会報継続のため皆様のご理解をお願いいたします。

郵政民営化により振込手数料（同窓会で負担）が高くなりました。

窓口振込 70円 ↓ 120円  
ATM機 60円 ↓ 80円

※郵便局のATMを使えば、  
①土曜・日曜も振込出来ます。

②同封の振込用紙をそのまま機械に挿入し、金額のみ押せばOKです。  
③窓口より待ち時間が早いです。

☆銀行口座振込みを受け付けます

銀行 三菱東京UFJ銀行  
支店 433 新橋支店 普通預金

口座番号 4753403  
口座名義 港工同窓会会長前田武男

※必ず会員No.を記入して下さい。  
出来れば振込連絡をお願いします。

◎卒業生への諸証明発行について

都立港工業高等学校の閉校に伴い卒業生への諸証明の発行事務は都立六郷工科高等学校において受け付けています。

〒144-8506

大田区東六郷2-18-2

京浜急行「雑色」下車

国道沿い徒歩3分

TEL 03-3737-6565

ご不明の点につきましては、

東京都教育庁高等学校課

TEL 03-5321-1111

へお問い合わせ下さい。

◎会員数の把握状況		H24年3月現在	
区分	在籍数	確認数	(亡)
正会員	高輪一本	771	68 (83)
	高輪二本	768	33 (86)
	麻布一本	485	117 (140)
	港・一定	3,866	598 (87)
	港・全	9,773	3,584 (270)
計	15,663	4,400 (666)	
特別会員	旧校長	15	5 (10)
	旧職員	626	286 (130)
	計	641	291 (140)

☆平成23年度の収支状況

前期繰越額	2,699,205.-
収入の部	1,532,510.-
臨時会	385,000.-
賛助金 551名	1,102,000.-
寄付その他	45,510.-
支出の部	1,642,168.-
総会費 40名	360,621.-
通信費	642,750.-
広報費	399,945.-
文化祭費	3,000.-
事務その他	235,852.-
次期繰越額	2,589,547.-

>同窓会の連絡先変更について<

従来の㈱クリーンジャパンを退職し変更になり、住所変更の連絡、名簿内容の質問、同窓会ニュースへの寄稿、クラス会他近況等々は下記事務局へお願いします。

記

〒278-0051 千葉県野田市七光台 158-5

港工同窓会 松岡 信之(会計理事・港16期A)

TEL 080-1278-1584 FAX 04-7129-0916

E-mail: matsuo@minatokou.net



「港工同窓会ニュース」第11号は、六郷工科高等学校の千葉政英先生をはじめ役員・恩師・同窓生の方々多数のご協力とご支援のお陰をもちまして発行できました。心より厚く御礼申し上げます。

昨年の六郷祭には30期代、40期代の方々ブースを訪ねてくれ、アルバムや展示品を見て、先生のお話や当時の思い出話をされるのを聞くと、やはり同窓会は続けることが大事、遣り甲斐を実感します。クラス会等活発な方々が居る一方全く連絡無しの方も多いようです。

六郷工科高校での総会、芝パークホテルでの懇親会に、気軽にご参加をお待ち申し上げます。

お一人でも大丈夫ですよ、同窓生、仲間ですから！（松岡）

※会員名簿は、個人情報保護の観点から発行予定はありません。クラス名簿は本人確認の上、送付します。

※創立20周年記念誌(昭和41年)

創立50周年記念誌(平成8年)

閉校記念誌(平成16年)DVD付

の在庫が有りますので、ご希望の方はご一報下さい。

なお、秋の六郷祭(11月10、11日)の同窓会ブースでも展示します。